

日本産東洋象 (*Stegodon orientalis* Owen) の標本目録

三 島 弘 幸*・宮 崎 重 雄**

東洋象 (*Stegodon orientalis* Owen)***の標本目録は、これまで鹿間 (1937), 亀井 (1978), 河村 (1980) のまとめたものがある。筆者らも、ここ数年来関東地方の東洋象の研究をするなかで、文献を集めてきたが、上記のものに若干の追加の必要が生じてきたので、この機会に産地・層準・歯種・文献をまとめてみた。できるだけ新しい地名を使うようにしたが、それがはっきりしないものは原記載どおりにした。ここに収録した以外にも、東洋象の標本が存在すると想像される。ご一報いただければ幸いである。

本目録の作成にあたっては、京都大学の亀井節夫会員、大阪自然史博物館の樽野博幸会員、鳥取大学の赤木三郎会員にご教示をいただいた。ここに心からお礼申しあげる。

標本目録 (①産地, ②層準, ③歯種, ④文献番号)

1. ①岩手県東磐井郡東山町長坂, 東北開発株式会社岩手セメント工場石灰岩採石場, ②第四紀裂か堆積物 (黄灰色ないし茶褐色の細粒ないし粗粒砂層, 黄灰色シルト層, 黄灰色ないし茶褐色の細礫まじり粘土層), ③歯種不明, 臼歯破片 (稜数 3), ④ 9), 10), 24)

2. ①岩手県東磐井郡東山町松川, ②細砂質粘土層, ③歯種 M_2^{****} 破片, ④ 9), 10), 15)

3. ①栃木県安蘇郡葛生町大叶, ②裂か堆積物 (含礫粘土層), ③歯種 M_1^1 , iM , ④ 9), 10), 20), 27), 28), 31), 44), 46)

4. ①栃木県安蘇郡葛生町宮下町, 村檜石灰工業株式会社 3 号現場, ②下部葛生層, 中期更

新統 (茶褐色粘土層), ③歯種 $\bar{3}$ DP 破片, DP_4 破片, M_1 , 右下顎骨破片, ④ 9), 10), 17)

5. ①栃木県佐野市出流原町出流原採石場, ②上部葛生層? (carnivora bed), ③歯種 M_2 , ④ 9), 10), 20), 30), 31), 41), 46)

6. ①栃木県佐野市出流原町旧須永石灰岩採石場, ②上部葛生層 (下部葛生層に由来する二次化石と推定される。含礫粘土層), ③歯種 M_3 , 切歯破片, 胸椎破片, ④ 9), 10), 18)

7. ①埼玉県秩父郡皆野町三沢, ②青色粘土層 (多摩段丘面), ③歯種不明, 臼歯破片 (稜数 1), ④ 3), 9), 10)

8. ①東京都西多摩郡五日市町増戸秋川河原, ②歯種 M_3 破片, ③青粘土層, ④ 9), 10), 20)

9. ①千葉県君津郡大佐和町笹毛砂利取場, ②歯種第 2 大臼歯破片, ③上総層群長浜層 (砂礫層), ④ 9), 10), 20), 28), 39)

10. ①千葉県東金市小学校裏の崖, ②最上部三浦層の上部 (下部武蔵野層中部相当), ③歯種 M_3 破片, ④ 9), 10), 13), 20)

11. ①新潟県柏崎市, ②層準不明, ③歯種, 部位不明, ④ 9), 10), 11), 14), 19), 20), 40)

12. ①新潟県刈羽郡高柳町, ②和南津砂岩層?, ③歯種 M_1 , M_2 , 右下顎骨, ④ 10), 11), 19)

13. ①静岡県庵原郡鷺ノ田, ②鷺ノ田礫層, ③歯種, 部位不明, ④ 9), 10), 20), 47)

14. ①滋賀県大津市堅田町南庄, ②歯種 $\bar{3}DP_3$, $\bar{4}DP_4$, 左右下顎骨, ③古琵琶湖層群堅田累層上仰木火山灰累層, ④ 2), 4), 5), 9), 10), 12), 13), 14), 19), 20), 21), 22),

Hiroyuki Mishima and Shigeo Miyazaki: The List of *Stegodon orientalis* Owen from Japan.

* 日本大学松戸歯学部第二解剖学教室

** 群馬県立前橋第二高校

*** 以後 *Stegodon orientalis* Owen は省略する。

**** 歯種の表示法については、長鼻類団体研究グループ (1977) に従った。

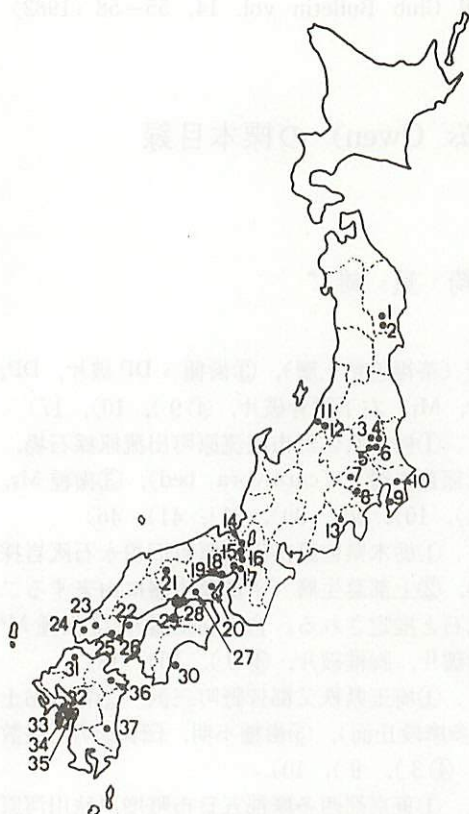


図1 東洋象 (*Stegodon orientalis* Owen) の産地。番号は標本目録の番号に準ずる。

29), 48), 49)

15. ①京都府京都市伏見区深草鞍ヶ谷, 粘土採掘場, ②大阪層群上部(第6海成粘土層), ③歯種 M^2 , M^1 破片, 2M 破片, 骨片, ④8), 9), 10), 22), 49)

16. ①大阪府枚方市宮之下香里団地宅地造成現場, ②大阪層群上部(第7海成粘土層), ③歯種 2M , 1M 破片, 頭蓋骨破片, ④9), 10), 42), 49)

17. ①大阪府大阪市内地下鉄堺筋線工事現場, ②大阪層群?, ③歯種 3M , ④43)

18. ①大阪府豊中市蜷ヶ池, ②大阪層群(第8海成粘土層), ③歯種切歯, ④43), 49)

19. ①兵庫県明石市大久保町西八木, ②明石層, ③歯種, 部位不明, ④10), 19), 20)

20. ①兵庫県津名郡一宮町郡家沖海底, ②淡路層群, ③歯種 M^2 , ④4), 9), 10)

21. ①岡山県真庭郡川上村延助河床, ②蒜山原層上部, ③歯種不明, 臼歯破片(稜数3), ④

3), 10), 16)

22. ①広島県広島市沖海底, ②層準不明, ③歯種, 部位不明, ④9), 10)

23. ①山口県美弥市伊佐宇部興産伊佐採石場, ②下部伊佐層 (red clay), ③歯種 2M , ④9), 10), 32)

14. ①山口県美弥市大嶺町重安小野田セメント採石場, ②下部伊佐層 (red clay, Günz-Mindelian), ③ M^3 破片, ④9), 10), 33)

25. ①山口県宇部市沖見初炭鉱, 台平, ②草江シルト層 (砂層), ③歯種 $^3M^3$, 頭蓋骨破片, ④9), 10), 14), 45)

26. ①山口県宇部市恩田炭鉱, ②草江シルト層, ③歯種, 部位不明, ④9), 10), 45)

27. ①香川県高松市香西浦西北の海底, ②層準不明, ③下顎骨, ④10), 19)

28. ①瀬戸内海備讃海峡の海底, ②層準不明*, ③歯種, 部位不明, ④10), 19), 20)

29. ①香川県仲多度郡与島村三ツ子島沖海底, ②層準不明, ③歯種, 部位不明, ④9), 10)

30. ②高知県高岡郡窪川町興津沖の海底, ②層準不明, ③ M^3 , ④10), 34)

31. ①福岡県京都郡苅田町平尾台青龍窟, ②層準不明, ③歯種 3DP , ④10), 23)

32. ①長崎県南高来郡口之津町, ②層準不明, ③歯種, 部位不明, ④6), 26)

33. ①長崎県長崎市沖の海底, ②層準不明, ③歯種, 部位不明, ④9), 10), 19), 20)

34. ①長崎県南高来郡南有馬町吉川海岸沖の瀬, ②層準不明, ③歯種 M^3 破片, ④7), 10), 25)

35. ①熊本県天草郡有明町赤崎沖海底, ②ロノ津層群大屋層相当層?, ③歯種 M^3 , 右下顎骨, ④7), 10)

36. ①大分県大分市円生丘陵, ②大分層群鶴崎層 (牧砂礫層シルト部), ③歯種, 部位不明, ④10), 35), 36), 37), 38)

37. ①宮崎県宮崎郡爪生野村, ②層準不明 (Calabrian), ③歯種不明 (高さ/前後幅1.2), ④28), 29)

文献目録 (アルファベット順)

1) 藤本治義 (1936): *Stegodon orientalis* sho-

* 沙弥島層下部と推定される。

- doensis* Matsumoto?の新産地, 地質雑, 43, 45-46.
- 2) 林 隆夫 (1974): 堅田丘陵の古琵琶湖層群, 地質雑, 80, 216-276.
 - 3) 蒜山原団体研究グループ (1975): 岡山県蒜山原の第四系 (2), 地球科学, 29, 227-237.
 - 4) 池辺展生・石田志郎・千地万造 (1965): 近畿における旧象化石の分布と層準, 化石, 9, 1-12.
 - 5) Ikebe, N., Chiji, M. & Ishida, S. (1966): Catalogue of the late Cenozoic Proboscidea in the Kinki District, Japan. J. Geosci. Osaka City Univ., 9, 44-56.
 - 6) 井上正昭 (1952): 九州西部の若い新生界の地史学的研究 (その1, 長崎県南高来郡口ノ津付近の地質), 地質雑, 58, 308-309.
 - 7) 亀井節夫 (1964): 有明海の旧象化石について, 資源研彙報, 62, 109-120.
 - 8) ——— (1968): 深草より *Stegodon orientalis* の産出とその層準, あわせて Ma 6 下位の火山灰層について, 日本地質学会関西支部報, 4-8.
 - 9) ——— (1978): 象のきた道, 中央公論社, 東京.
 - 10) 河村善也 (1980): 日本の中期更新世の哺乳動物化石, 地団研第34回総会学術シンポジウム講演要旨集, 71-76.
 - 11) 黒金道雄・田崎芳作・堀川秀夫 (1977): 新潟県産の哺乳動物化石, 新潟の自然, 第3集, 97-102.
 - 12) Matsumoto, H. (1915): On some fossil Mammals from Sze-chuan, China. Tohoku Imp. Univ., Ser. 2 (Geol), 3, 1-28.
 - 13) 松本彦七郎 (1924 a): 日本産化石象の種類 (略報), 地質雑, 31, 255-272.
 - 14) ——— (1924 b): 日本産ステゴドンの種類, 地質雑, 31, 323-339.
 - 15) ——— (1941): 陸中国東磐井郡松川村及基他本邦産ステゴドン及パラステゴドンに就て, 動物学雑誌, 53, 385-396.
 - 16) 三若弘・富岡一夫・徳山鍬也 (1970): 蒜山高原, 岡山文庫, 29, 52-53.
 - 17) 宮崎重雄・三島弘幸 (1980): 新たに発見された栃木県葛生町産の *Stegodon orientalis* Owen について, 地球科学, 34, 144-155.
 - 18) ——— (1982): 栃木県佐野市出流原町で産出した *Stegodon orientalis* Owen, 地球科学, 36, 161-165.
 - 19) 直夫信夫 (1944): 日本哺乳動物史, 養徳社, 東京.
 - 20) ——— (1954): 日本旧石器時代の研究, 寧楽書房, 東京.
 - 21) Naumann, E. (1881): Ueber Japanische Elephanten der Vorzeit. Paläontogr., 28, 1-39.
 - 22) 岡崎美彦・松岡長一郎 (1979): 滋賀県産の哺乳動物化石, 滋賀の自然, 391-467.
 - 23) 岡崎美彦・曾塚孝・道下哲也 (1980): 平尾台青龍窟からのステゴドン化石の産出, Bull. Kitakyushu Mus. Nat. Hist., 2, 49-52.
 - 24) 小野寺信吾・大沼善吉・志賀正典 (1966): 岩手県東磐井郡東山町からステゴドンの新産出, 地質雑, 72, 354-355.
 - 25) 大塚裕之 (1966): 口ノ津層群の地質構造・化石および対比, 地質雑, 72, 491-501.
 - 26) 大塚裕之 (1979): 九州及び琉球列島の脊椎動物化石4, 日本化石集, 第58集, 築地書館, 東京.
 - 27) Saheki, S. (1930): Two Fossil Elephants from Chiba and Tochigi Prefectures. Ibid, 37, 280-281.
 - 28) 佐伯四郎 (1933): 葛生化石石灰洞の基後の産出獣類とその性状に関する新解釈, 科学, 3, 140-141.
 - 29) 鹿間時夫 (1937 a): 日本産化石長鼻類の標本及び文献, 齊藤報恩会時報, 122, 9-28.
 - 30) ——— (1937 b): 葛生層 (裂か性堆積物) の地質学的研究 (第二報), 東北大・地・古・研究報告, 1-34.
 - 31) Shikama, T. (1949): The Kuzui Ossuaries. Sci. Rep. Tôhoku Univ., Sec. Ser., 23, 71-73.
 - 32) ——— & Okafuji, G. (1936): On Some Choukuotien Mammals from Isa, Yamaguchi Prefecture, Japan. Sci. Rep. Yokohama Nat. Univ. Sec. 2, 51-58.
 - 33) ——— (1965): On Some Elephant Teeth from Hiroshima and Yamaguchi Prefectures. Sci. Rep. Yokohama Nat. Univ.,

Sec. 2, 27-36.

- 34) ——— & Noda, K. (1968): On an Elephant Tooth gained from off Cape Yoze, Kochi Prefecture. Sci. Rep. Yokohama Nat. Univ., Sec. 2, 7-11.
- 35) 首藤次男(1953a): 豊州累層群の地史学的研究(I), 地質雑, 59, 225-240.
- 36) ———(1953b): 豊州累層群の地史学的研究(II), 地質雑, 59, 372-384.
- 37) ———(1962a): 九州の最新統諸層の吟味一対比の基礎(九州の最新統の地史学的研究-II), 地質雑, 68, 301-312.
- 38) ———(1962b): 九州の最新統諸層の対比(九州の最新統の地史学的研究-III), 地質雑, 68, 481-484.
- 39) Takai, F. (1936): Fossil Elephants from Tiba Prefecture, Japan. Jap. Jour. Geol. Geogr., 13, 197-203.
- 40) 高井冬二(1940): 新潟県下に発見された2象化石について, 地質雑, 47, 339-342.
- 41) ———・松本栄一(1949): 古代象の発掘現場, 科学朝日, 30-31.
- 42) 樽野博幸(1976): 枚方丘陵(大阪府)で発見された *Stegodon orientalis* Owen, 大阪市立自然史博物館研究報告, 31-36.
- 43) ———(1979): 大阪のゾウ化石とそのうつりかわり, 大阪市立自然史博物館展示解説, 第5集, 22-28.
- 44) Tokunaga, S. (1930): Animal Remains in Honsyu, Kyushu, and Korea in Pleistocene Period. Proc. Jap. Ass. Adv. Sci., 6, 175-178.
- 45) ——— & Iizuka, M. (1930): Geological studies on the Ube Coal-Field. Mem. Fac. Sci. Eng. Waseda Univ., 1-132.
- 46) ——— & Takai, F. (1938): Fossil Elephants from Totigi Prefecture, Japan. Jap. Jour. Geol. Geogr., 15, 69-72.
- 47) 土 隆一(1961): 東海地方の第四紀地史, 槇山次郎教授論文集, 31-44.
- 48) Yokoyama, T. (1969): Tephrochronology and Paleogeography of the Plio-Pleistocene in the Eastern Setouchi Geologic Province, Southwest Japan. Mem. Fac. Sci. Kyoto Univ., (B), 36, 19-85.
- 補遺
- 49) 千地万造(1970): 近畿地方の更新世長鼻類化石3, 日本化石集, 第17集, 築地書館, 東京.

(1982年1月11日受理)